



碧の風

千葉市立川戸中学校
校報 第3号
令和4年6月15日

成長の機会

校長 板垣 章子

アジサイの大輪が梅雨空を彩る季節となりました。グラウンド脇のプールでは、保健体育の授業で、水しぶきを上げながら元気に泳ぐ生徒たちの姿が目に映ります。早いもので、夏休みまで残り1か月となりました。

5月中旬から学校では、次々と大きな行事が行われました。5月20日に行われた体育祭は平日の午前中ということでしたが、保護者の皆様の応援を受けて、生徒たちは精一杯頑張りました。学級が団結して臨んだ各競技、全校生徒によるソーラン節、美術部制作の壁画など、見どころ満載で、実行委員による生徒主体のすばらしい体育祭でした。また、その翌週には、生徒会本部役員が中心となり準備を進めてきた生徒総会が行われました。3年ぶりに体育館に一堂に会し全校生徒が見つめる中、代表生徒たちによる落ち着いたある会の運営、説明や質疑応答等が繰り広げられました。さらに6月1日からは、2泊3日で3年生の修学旅行が行われました。心配されていた新型コロナウイルス感染症についても、健康観察や手指消毒、黙食等を守り、体調不良で離団する生徒を出すことなく、無事にすべての行程を終えることができました。上高地、安曇野、松本城など、初夏の美しい信州を堪能し、生徒たちの笑顔がうれしい3日間でした。

このように生徒が主役の行事ですが、その裏では何倍もの時間をかけて教職員が動いています。会議での提案、日程調整や資料準備、教職員間での共通理解など、多くの過程を経て本番にたどり着きます。夜遅くまで準備したり、コロナ禍で決定事項が二転三転しまったりすることもあります。それでも教職員は、行事が子供たちを様々な角度から成長させていくチャンスと捉え、可能な限り、よいものを目指そうとしています。行事を通して活躍する生徒、成長する生徒の姿を見ることが、教職員の喜びでもあるからです。

先週金曜日は、今年度初の定期テストが実施されました。今週は、返却されるテストの点数に一喜一憂する子供たちの声と、熱の入った教科担当の先生たちの激励の声が教室から聞こえてきます。さらに、これからの1か月は総合体育大会に向け、部活動の練習がますます熱を帯びてくることでしょう。行事や学習、部活動など、様々な場面を成長の機会ととらえ、目の前のことに頑張る生徒たちを、教職員一同、しっかり支えていきたいと思えます。